

キャンプファイヤー実施要領

1. 意義と目的

キャンプファイヤーは、大自然と闇と炎が醸し出す神秘的な雰囲気の中で、厳粛におこなう儀式と楽しいつどいを通して、自己を見つめお互いの仲間意識を高めるとともに、それぞれの感動を刻み、明日への生き方の糧とする意義深いつどいである。具体的には、次のことを目的として実施する。

- (1) 火の持っている厳しさ、暖かさを知るとともに、自然の摂理と豊かな情操を育む。
- (2) 創意と工夫をこらし、出し物をつくり、発表しあったり鑑賞することによって、連帯感、協調性、団結心を養う。
- (3) だんらんの中に、郷土愛や友情を深め合う。
- (4) 厳粛な中で、自己の反省をするとともに、明日への生き方を考える。

2. 実施の基本事項

- (1) 場所 第1 キャンプファイヤー場 (300人)
第2 キャンプファイヤー場 (200人)
太陽の広場 (100人)
運動広場 (400人)
- (2) 所要時間 第1部 (火を迎える儀式)・・・15分
第2部 (親睦のつどい)・・・55分
第3部 (火を送る儀式)・・・20分
- (3) 役割 営火長 1名
司会者 1～2名
火のつかい 1名
営火係 誓いのことばを言う 5～6名
設営係 準備と後始末20～25名 (薪運びに人数が必要)
放送係 1～2名

(4) 準備

- ☆ 薪ぐみ ・井桁用の丸太又は角材 (直径約10cm、長さ約1m) を16本、およびその中に入れる薪を用意する。
- ☆ トーチ ・火のつかい用1本と営火係用の本数を用意する。長さ約70cm程度の棒の先端に約15cmの長さに布を巻き付け、灯油を染みこませておく。
- ☆ 放送器材 ・携帯用アンプ、マイク、カセットラジオ、テープ等 (これらは必ずしも使わなくて良い)
- ☆ 消火用バケツ ・終了後、火床を消火する。

3. 火床の作り方 (一例)

当少年自然の家の売店が準備している薪 (有料) を使って、組み立てる場合は次の手順で行うと便利です。途中、手を加えなくてよく、1時間30分で燃えつきます。

- ① 地面に2本ずつ井の形に組み、その中に製材端板 (以下セイタという) を一面に敷く。
- ② 残りの丸太16本を組む。
- ③ 井桁の中の四方をセイタを立てながら、壁のように囲う。
- ④ その中に麻袋に入っている板切れを入れる。なるべくすき間の無いようにつめた方がよい。
- ⑤ 敷きつめる板きれが井桁の上面まで達しないときは、セイタを折って入れる。
- ⑥ 最上面はセイタを並べて平らにする。
- ⑦ その上に細いセイタを直径15cmぐらいに束ね、すそを広げてピラミッド型に立て、ピラミッドの中は空洞にしてトーチを差し込むために一方を開ける。
- ⑧ ピラミッドが崩れないように、残りのセイタ及び細いセイタで周囲を囲う。
- ⑨ 空洞の中には、トーチの火がすぐ燃えつくように、細いセイタを短く折って入れたり、布きれを入れておく。それに灯油を少しかけても良い。

